

授業概要

卒業論文の前段階として、専門演習では幼児教育分野におけるテーマを自由に選択し、共通性の高いテーマを選択した複数人で実際に協同して行う。1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回 ～ 第19回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第2回 ～ 第3回	興味がある分野やテーマの確認(現状で把握している情報に対する考察)	第20回 ～ 第21回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第4回 ～ 第5回	文献の検索方法および読み方	第22回 ～ 第24回	研究報告書の作成とプレゼンテーション
第6回 ～ 第7回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第25回 ～ 第27回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第8回 ～ 第9回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第28回 ～ 第29回	研究計画の発表
第10回 ～ 第14回	定量的調査の講義と演習：アンケートをしてみよう！	第30回	秋期まとめ
第15回	春期まとめ		

到達目標

幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案することができる。

履修上の注意

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どのような内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

予習・復習

事業時間外で取り組む課題を課すことがある。

評価方法

春期における文献レビュー等の諸課題、秋期における研究計画の立案を各50%で評価する。

テキスト

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

授業概要

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育・教育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開できるよう指導を行います。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	レポート①～作成	第17回	レポート③～作成
第3回	レポート①～発表	第18回	レポート③～発表
第4回	レポート①～発表	第19回	レポート③～発表
第5回	レポート②～作成	第20回	卒業論文の進め方
第6回	レポート②～発表	第21回	卒業論文の研究テーマ
第7回	レポート②～発表	第22回	文献の探し方①
第8回	保育・教育実践研究①	第23回	文献の探し方②
第9回	保育・教育実践研究②	第24回	卒論研究①
第10回	保育・教育実践研究③	第25回	卒論研究②
第11回	保育・教育実践研究④	第26回	卒論研究③
第12回	保育・教育実践研究⑤	第27回	卒論研究④
第13回	保育・教育実践研究⑥	第28回	卒論研究⑤
第14回	保育・教育実践研究⑦	第29回	研究結果発表
第15回	まとめ	第30回	まとめ

到達目標

- ・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
- ・卒業論文のテーマを決めることができる。

履修上の注意

グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。

発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。

- ① 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学—発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。
- ② パソコンを使った授業を行います。

基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習を兼ねて授業時間外で学習してもらいます。

※ゼミ合宿や保育所での学外研修を行う予定です。実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。また、合宿等実施の際には、費用がかかりますので、準備をしてください。

予習・復習

発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる。

評価方法

発表内容（80%）と意欲的に学ぼうとする態度（20%）を総合的に評価します。

テキスト

特に、指定しない。

授業概要

教育の現場では、植物園や動物園、科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際、教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく、十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は、こうした観点から、県内および近県の社会教育施設等を取り上げ、理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して、将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標として指導する。

後半は、理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から、学会誌や専門書の輪読、科学実験を行う。これらを通して、さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い、卒業論文の土台づくりとしたい。

授業計画

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	環境と人間	第17回	理科教育・環境教育論文とは、発表の順番等の決定
第3回	理科教育・環境教育とは	第18回	発表の技法、資料の作り方
第4回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第19回～ 第29回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議、卒論にむけて
第5回～ 第6回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動		
第7回～ 第8回	社会教育施設の見学のための準備、 計画		
第9回～ 第10回	社会教育施設の見学、資料収集 ※学外活動		
第11回～ 第12回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第13回～ 第14回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第15回	前半まとめ	第30回	後半まとめ

到達目標

- ・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
- ・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
- ・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

履修上の注意

本演習は、4年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を理科教育や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

予習・復習

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

評価方法

授業中の態度や参加状況（30%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（40%）、個人レポートなどの提出物（30%）によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションを欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

テキスト

適宜印刷資料を配付する。

授業概要

子どもの特徴に合わせた柔軟な支援や発達援助の知識・技能を身に付けるため、子どもの発達や配慮が必要な子どもなどを中心として各自の考えていきたい卒業論文のテーマを検討する。専門演習では、興味のあるテーマを探りつつ、多角的な視点で物事をとらえる姿勢、批判的思考力、情報収集能力など、卒業論文作成だけでなく、社会で活躍するために不可欠な力の獲得を目指して指導する。

【過去の卒業論文のテーマの例】

- ・発達障害児・者との接触経験の有無が発達障害のイメージにどのように関連しているか
- ・障害児・者及びその家族に対する認識に関する研究
- ・子どものヒヤリハット場面における大学生の重大さの認識と対策について
- ・大学生における保育者効力感が子どものやる気を促す関わり方に及ぼす影響
- ・自己主張・自己抑制と幼児期の癩癩の関係
- ・ADHD 傾向にある大学生の自己肯定感とコミュニケーション能力の関連性を明らかにする研究

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	春期の振り返り
第 2 回	研究の進め方	第 17 回	研究法の理解（質問紙など）①
第 3 回	子どもの心理発達の理解①	第 18 回	研究法の理解（文献調査など）②
第 4 回	子どもの心理発達の理解②	第 19 回	研究法の理解（その他）③
第 5 回	障害等がある子ども①	第 20 回	研究テーマの検討①
第 6 回	障害等がある子ども②	第 21 回	研究テーマの検討②
第 7 回	配慮が必要な他の子ども①	第 22 回	文献収集と情報整理①
第 8 回	配慮が必要な他の子ども②	第 23 回	文献収集と情報整理②
第 9 回	学習した内容のまとめ①	第 24 回	文献収集と情報整理③
第 10 回	学習した内容のまとめ②	第 25 回	研究方法の検討①
第 11 回	テーマ探し、文献収集①	第 26 回	研究方法の検討②
第 12 回	テーマ探し、文献収集②	第 27 回	研究方法の検討③
第 13 回	ディスカッション①	第 28 回	卒業研究の構想発表①
第 14 回	ディスカッション②	第 29 回	卒業研究の構想発表②
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・配慮が必要な子どもの特性を踏まえた保育を考えることができる。
- ・卒業論文作成に必要な力（多角的な視点で物事をとらえる姿勢、批判的思考力、情報収集能力など）を身につけることができる。

履修上の注意

- ・テーマに関する学習に意欲をもって取り組むこと。
- ・協働学習やディスカッションなどを行うことがあるため、他者との関係を良好にするよう努めること。他人任せにせず役割を果たすこと。
- ・資料作成にはパソコンを使用する。オフィス系ソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）、インターネット検索などのスキルを身に付けるよう努めること。
- ・資料作成の際、不正行為は絶対にしないこと。

予習・復習

資料作成や調査、発表準備等のために授業時間外で自主学習が必要である。

評価方法

授業中の態度（20%）、研究発表への取り組み（40%）、レポートなどの提出物（40%）によって判断する。不正を行った場合、不可になる可能性がある。

テキスト

適宜資料を配布する。

授業概要

この演習は「卒業研究」の前段階として、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指して指導する。また保育・教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための環境や指導の研究を行う。豊かな表現を促すための配慮・援助や材料・用具等の取り扱いについて、製作体験を通して学習していく。

授業計画

第1回	材料経験の内容と方法 ①平面表現（素描，水彩，絵本づくり）	第16回	創造力を高める手作り遊具 ・仕掛けのあるおもちゃ（木のおもちゃ，玩具，音階のある楽器作りなど） ・大型遊具のデザイン
第2回		第17回	
第3回		第18回	
第4回	②立体表現（紙工作，粘土型取り運動会メダルなど）	第19回	マルチメディアを用いた映像表現（クレイアニメ，ライトファンタジー）
第5回		第20回	
第6回	学外活動—美術館訪問と鑑賞教育—	第21回	海外の子どもの造形表現（欧州南米）と鑑賞教育（アールブリュット他）
第7回	材料体験の内容と方法	第22回	
第8回	③伝承の遊び（飛び出す仕掛け絵本，折り紙，お便りカード）	第23回	学外活動：親子を対象とした造形ワークショップ（造形遊びの発展）
第9回		第24回	
第10回	幼・保・小学校の連携と総合的な活動（紙芝居，パネルシアター，ペープサート，影絵，障がい者のアート，砂遊びなど）	第25回	研究課題：模擬保育・指導計画の設定→製作活動の導入→展開→まとめ，評価と反省会
第11回		第26回	
第12回		第27回	
第13回	乳幼児から小学校児童画の見方	第28回	
第14回	—発達段階による様々な表現—	第29回	
第15回	課題発表（子ども向け美術館レポート）	第30回	

※学芸員による幼児・児童の鑑賞教育を聴講。埼玉県内公共施設にて、親子対象のワークショップ 学外活動を計画中。

到達目標

- ・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高めることができる。
- ・教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や、基礎となる技能を習得することができる。
- ・研究テーマを設定して、継続的（次年度4年次）に研究計画を遂行する能力を養うことができる。

履修上の注意

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりも、むしろ時間をかけた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士の対話的で深い学びを目指す。

予習・復習

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップの企画参加を検討中。ファシリテーター（促進者）として、子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

評価方法

課題に取り組む態度、製作した作品の質と量（50%）、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動：一部任意（30%）、製作レポートの内容（20%）により評価する。

テキスト

参考書：「保育内容の研究（表現-造形）Ⅰ」の教科書【『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤実・森本昭宏編著，創成社，2020】を活用する。

授業概要

発達心理学・教育心理学の考え方を背景として、子どもに関する現代社会の様々な課題に積極的に向き合う姿勢と力を身につける。そのために、発達心理学や教育心理学の文献を読んだり、意見交換をしたりしながら、発達や教育に関する心理学的な調査や考察の方法について指導する。

具体的には、春期は、文献講読およびディスカッションを通じて、発達心理学、教育心理学について学ぶことを中心とする。秋期は、卒業論文の作成に向けて、各自の研究テーマについて考え、卒業論文を書くために必要な研究方法や分析方法について学ぶ。これらの活動を通じて、発達心理学、教育心理学に関する自らの興味関心を追求し、卒業論文のテーマの方向性を定め、4年生での卒業論文へつなげる。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	発達心理学、教育心理学についての知識	第17回	研究関心の確認
第3回	発達心理学の研究の特徴	第18回	研究テーマの探索
第4回	教育心理学の研究の特徴	第19回	先行研究の検討①
第5回	文献の紹介、発表担当回の決定	第20回	先行研究の検討②
第6回	文献検索の方法	第21回	心理学の研究手法①
第7回	文献講読の方法	第22回	心理学の研究手法②
第8回	レジュメの作成方法	第23回	分析方法の見通し①
第9回	発表および質疑応答のしかた	第24回	分析方法の見通し②
第10回	文献講読実践①	第25回	研究計画書の作成①
第11回	文献講読実践②	第26回	研究計画書の作成②
第12回	文献講読実践③	第27回	卒業論文の構想発表①
第13回	文献講読実践④	第28回	卒業論文の構想発表②
第14回	文献講読実践⑤	第29回	卒業論文の構想発表③
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ、卒業論文に向けて

到達目標

- ・発達や教育に関わる問題についてどのようなものがあるのか理解することができる。
- ・発達心理学および教育心理学の研究対象や研究方法を理解することができる。
- ・発達や教育に関わる問題について、自らの興味・関心を追求し、卒業論文のテーマを定めることができる。

履修上の注意

- ・主体的かつ粘り強く課題に取り組む姿勢を求める。
- ・グループワークや議論を行うため、他の受講生との活動に対しても積極的な姿勢を求める。
- ・他者の発表や意見を聞いたり、感想や意見を述べたりすることでお互いに学び合う姿勢を求める。
- ・このゼミでは以上を重視するため、やむを得ない理由以外での遅刻、欠席は認めない。
- ・外部施設の見学を行う場合がある。

予習・復習

例えば、以下の活動について授業時間外の学習が必要である。
発表の準備、議論のための資料の確認など。その他、必要に応じて指示する。

評価方法

授業への参加態度およびグループワークへの取り組み状況(30%)、自身の興味あるテーマに関する文献についての発表(40%)、自身の研究テーマに関するプレゼンテーション(30%)

テキスト

ゼミ内で適宜指示する。

授業概要

子ども理解・家族の問題や心理に関わるテーマの中からゼミ生が関心のある内容を取り上げ、文献講読およびディスカッションを通して、各自が取り組んでいきたいテーマを探索する。問題意識を持ってテーマに取り組み、研究に向き合う姿勢を身につけることを目的として指導する。また、卒業論文作成に必要な知識や技能の獲得を目指す。春期は、心理学の研究の特徴や方法を学ぶとともに、グループもしくは単独で、関心のあるテーマについて文献講読と発表、および討論を行い、心理学的視点での事象のとらえ方を理解する。秋期は、各自の研究テーマを探索し、卒業論文のための文献研究や予備調査に取り組み、卒業論文の研究計画立案につなげていく。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	心理学の研究の特徴とテーマ①	第17回	研究テーマと研究方法の検討①
第3回	心理学の研究の特徴とテーマ②	第18回	研究テーマと研究方法の検討②
第4回	文献講読と討論：研究テーマ探索①	第19回	研究テーマと研究方法の検討③
第5回	文献講読と討論：研究テーマ探索②	第20回	文献研究／予備調査①
第6回	文献講読と討論：研究テーマ探索③	第21回	文献研究／予備調査②
第7回	文献講読と討論：研究テーマ探索④	第22回	文献研究／予備調査③
第8回	文献講読と討論：研究テーマ探索⑤	第23回	卒業論文の研究計画作成①
第9回	心理学の研究手法と分析：質問紙調査	第24回	卒業論文の研究計画作成②
第10回	心理学の研究手法と分析：面接調査	第25回	卒業論文の研究計画作成③
第11回	心理学の研究手法と分析：観察法	第26回	卒業論文の研究計画作成④
第12回	文献研究：発表と討論①	第27回	卒業論文の構想発表①
第13回	文献研究：発表と討論②	第28回	卒業論文の構想発表②
第14回	文献研究：発表と討論③	第29回	卒業論文の構想発表③
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・子どもと子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、心理学的視点でとらえることができる。
- ・他者の意見を尊重すること、自分の考えを述べることができ、積極的に討論することができる。
- ・自分の関心・問題意識を追及して、卒業論文のテーマを決めることができる。

履修上の注意

- ・グループワークやディスカッションを行うため、他者を尊重して協力するよう努めること。
- ・主体的な取り組みが求められ、かつ、グループワークも多いため、遅刻・欠席はしないこと。やむを得ない場合は必ず連絡を入れること。
- ・学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

予習・復習

資料の収集、調査、レポート作成、発表準備などのため、授業時間外での学習が必要である。

評価方法

授業・討論への取り組み（30%）、レポートなどの提出物（40%）、研究発表（30%）によって総合的に評価する。

テキスト

適宜、資料を配布する。

授業概要

音楽分野における現象や諸問題、作品等を取り上げ、ディスカッションと実践とを行う中で、そこにある課題点を見出すと共に、自らの研究テーマについて探索していきます。

具体的には、春期では、文献購読を通して音楽的観点からのアプローチ方法について学びます。また、音楽実践を行うことで知識、理論への理解を深めます。秋期では、卒業論文の作成に向けて、各自の研究テーマと研究計画の構想を検討していきます。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	音楽の文献購読の方法①	第17回	研究の進め方
第3回	音楽の文献購読の方法②	第18回	研究テーマの探索①
第4回	文献講読実践①	第19回	研究テーマの探索②
第5回	文献講読実践②	第20回	研究テーマの探索③
第6回	文献講読実践③	第21回	研究方法の検討①
第7回	文献講読実践④	第22回	研究方法の検討②
第8回	文献講読実践⑤	第23回	中間発表
第9回	音楽ワークショップ①	第24回	研究テーマの検討・修正
第10回	音楽ワークショップ②	第25回	卒業論文の研究計画作成①
第11回	音楽ワークショップ③	第26回	卒業論文の研究計画作成②
第12回	音楽ワークショップ④	第27回	卒業論文の研究計画作成③
第13回	音楽ワークショップ⑤	第28回	卒業論文の研究計画の発表①
第14回	研究テーマの構想へ向けて	第29回	卒業論文の研究計画の発表②
第15回	春期のまとめ	第30回	全体の振り返り、まとめ

到達目標

- ・文献購読を通して、音楽や教育に関する諸問題への理解を深めることができる。
- ・音楽ワークショップを通して、体感したり、自らの表現として発信したりすることができる。
- ・卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、計画を構想することができる。

履修上の注意

- ・音楽分野の諸問題、教育、演奏に興味関心がある方を前提とします。
- ・卒業研究にあたっては、演奏も可としますが、演奏作品に対する研究論文の作成も行います。
- ・音楽ワークショップ、課題へは主体的に取り組むこと。
- ・遅刻、欠席をしないこと。
- ・外部施設への見学、演奏に行く場合もある。

予習・復習

- ・練習、発表、各課題への準備と復習を行い、確実なものとする。

評価方法

・授業への参加姿勢や態度（30%）、レポートなどの提出物（30%）、研究発表と発表内容（40%）によって総合的に判断する。

テキスト

- ・受講生の興味関心を確認したうえで、授業内で指示します。

授業概要

「こどもの貧困」「ひとり親家庭」「児童虐待」「こども食堂」など、こどもや若い世代におきている社会福祉にかかわる問題や、児童養護施設での生活や利用児・者へのケア・対応に着目し、どうかかわっていけばいいか、解決に向けての取り組みや支援について考え、興味関心と問題意識を高めていく。

春期は上記問題や子育て支援にかかわる問題・テーマを各自で選び、文献購読・意見交換、発表を行う。秋期では卒業論文の執筆にむけて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料を収集する、先行研究に目を通す、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学んでいく。また、児童養護施設、障害者施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したい。

キーワード：こどもの貧困、児童養護施設でのケア・支援、こども食堂、地域子育て支援

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	「こどもの貧困」の文献購読・意見交換	第17回	研究の進め方①
第3回	「こどもの貧困」の文献購読・意見交換	第18回	研究方法について アンケート①
第4回	「こどもの貧困」の文献購読・意見交換	第19回	研究方法について アンケート②
第5回	「こどもの貧困」の文献購読・意見交換	第20回	研究方法について アンケート③
第6回	「児童虐待」の文献購読・意見交換	第21回	研究の進め方②
第7回	「児童虐待」の文献購読・意見交換	第22回	研究方法について インタビュー
第8回	「児童虐待」の文献購読・意見交換	第23回	研究方法について 観察
第9回	「児童虐待」の文献購読・意見交換	第24回	研究テーマについて
第10回	興味のあるテーマについて発表	第25回	研究の進め方③
第11回	興味のあるテーマについて発表	第26回	先行研究について
第12回	興味のあるテーマについて発表	第27回	研究計画について
第13回	[学外活動] 施設や支援現場の見学	第28回	[学外活動] 施設や支援現場の見学
第14回	[学外活動] 施設や支援現場の見学	第29回	[学外活動] 施設や支援現場の見学
第15回	春期のまとめ	第30回	1年のまとめ

到達目標

- ・こどもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考えることができる。
- ・卒業論文作成にむけて、その過程を理解し、研究計画を作成することができる。
- ・研究方法について理解することができる。

履修上の注意

- ・こどもや若い世代に起きている問題や支援について、興味・関心を持っていること
- ・卒業論文は上記の内容や社会福祉領域でテーマを選んでもらうことになるので、心積りをしておく
- ・意見交換や発表には、積極的に取り組むこと

予習・復習

授業内で、適宜指示をする

評価方法

発表の内容・充実度40%、期末レポート40%、授業への参加度（発言回数、内容）20%をふまえて評価する。

テキスト

各自の興味・関心を集約したうえで、適宜指示する。
また必要に応じて、授業内で資料を配布する。

授業概要

本演習は、人文社会/教育に関する卒業論文執筆に向けて研究の作法について学ぶことを目的として指導する。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、自分だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、それを育てる作法、調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し深めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法について体験していく。最終的には卒業論文という独特な世界をつくることになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	調査内容についての報告と共有①
第2回	教育学研究の位置づけと目的	第17回	調査内容についての報告と共有②
第3回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第18回	研究計画書の修正①問いを再設定する
第4回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第19回	研究計画書の修正②対象と方法の調整
第5回	文献報告①フィールドワーク（教材開発）1	第20回	研究計画書の修正③先行研究の再調査
第6回	文献報告②フィールドワーク（教材開発）2	第21回	大学図書館の活用①オンライン調査
第7回	研究計画書の作成①研究の問いと仮説	第22回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第8回	文献報告③参与観察（授業/教師研究）1	第23回	問いと先行研究の検討①
第9回	文献報告④参与観察（授業/教師研究）2	第24回	問いと先行研究の検討②
第10回	研究計画書の作成②先行研究の調査法	第25回	問いと先行研究の検討③
第11回	文献報告⑤インタビュー（歴史研究）1	第26回	口頭発表と質疑応答の作法
第12回	文献報告⑥インタビュー（歴史研究）2	第27回	卒業論文構想の発表①
第13回	研究計画書の作成③研究の意義と限界	第28回	卒業論文構想の発表②
第14回	研究計画の発表と今後の課題の共有①	第29回	卒業論文構想の発表③
第15回	研究計画の発表と今後の課題の共有②	第30回	卒業論文執筆に向けて

到達目標

- ・自らの関心をもった研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
- ・文献講読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- ・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身につけることができる。

履修上の注意

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしましょう。なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

予習・復習

基本的には、文献報告や研究計画書に関する調査が予習および復習となります。授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

評価方法

- ・研究計画書：40%
- ・報告・発表：40%
- ・議論の作法や姿勢：20%

テキスト

詳細は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて検討していきます。

＜参考文献＞

太田裕子 (2019). 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』 東京図書.
 阿部幸大 (2024). 『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』 光文社.
 イアン・パーカー (2008). 『ラディカル質的心理学——アクションリサーチ入門』 ナカニシヤ出版.
 楠見友輔 (2024). 『アンラーニング質的研究——表象の危機と生成変化』 新曜社.
 ウヴェ・フリック (2011). 『新版 質的研究入門——〈人間の科学〉のための方法論』 春秋社.
 佐藤郁哉 (2008). 『質的データ分析法——原理・方法・実践』 新曜社.

授業概要

本演習では、発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職に必要な知識や研究に対する姿勢を身につけられるよう指導する。春期は、発達心理学の概論と研究法を学び、自分の興味・関心があるテーマについて研究動向をまとめる。発表と議論を通して問題意識を明確にする。秋期は研究の問いを立て、研究の目的と方法を検討し、予備調査を実施する。ゼミ内で卒論構想発表会を行い、今後の課題を明らかにする。次年度の卒業論文に向けて研究計画書を作成する。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	発達心理学の文献講読①	第17回	研究の問いを立てる①
第3回	発達心理学の文献講読②	第18回	研究の問いを立てる②
第4回	発達心理学の文献講読③	第19回	研究の問いを立てる③
第5回	発達心理学の研究法①質問紙法	第20回	研究の目的と方法の検討①
第6回	発達心理学の研究法②面接法	第21回	研究の目的と方法の検討②
第7回	発達心理学の研究法③観察法	第22回	研究の目的と方法の検討③
第8回	文献研究①	第23回	予備調査の実施①
第9回	文献研究②	第24回	予備調査の実施②
第10回	文献研究③	第25回	予備調査の実施③
第11回	興味・関心に基づくテーマの発表①	第26回	卒論構想発表会①
第12回	興味・関心に基づくテーマの発表②	第27回	卒論構想発表会②
第13回	興味・関心に基づくテーマの発表③	第28回	卒論構想発表会③
第14回	問題意識を明確にする	第29回	研究計画書の作成
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職に必要な知識や研究に対する姿勢を身につけることができる。
- ・自分の興味・関心のあるテーマについての研究動向をまとめ、問題意識を明確にすることができる。
- ・研究の問いを立て、他者に向けて説明することができる。

履修上の注意

- ・遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- ・授業やディスカッションには積極的な態度で参加することが望まれる。
- ・必要に応じて外部施設の見学を行う場合がある。

予習・復習

- ・文献講読、発表の準備、予備調査などのために、授業時間以外でも予習・復習の時間が必要である。

評価方法

- ・授業への参加態度（40%）、発表（40%）、レポートなどの提出物（20%）で評価する。

テキスト

- ・適宜資料を配布する。

授業概要

「小学校国語科教育」をテーマに、国語の授業を実践的・理論的に学んでいく。具体的には「聞く・話す」「書く」「読む」という具体的な言語活動の追試を行い、どのような授業ができるかを試行する。さらに、複数の文献をもとに言語活動の現実を探りながら、先行研究から何が学べるかを思考する。最終的には、理論と実践をつなぐ研究姿勢を身に付けることをめざして指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス 国語「概説」	第16回	発展1 言葉遊び
第2回	ことばの力1 話す力・聞く力	第17回	発展2 日本語の特色
第3回	ことばの力2 書く力1	第18回	発展3 メディア・リテラシー
第4回	ことばの力3 書く力2	第19回	研究テーマの検討1
第5回	ことばの力4 読む力	第20回	研究テーマの検討2
第6回	文章のいろいろ1 説明的文章	第21回	研究テーマの検討3
第7回	文章のいろいろ2 文学的文章	第22回	研究テーマの検討4
第8回	文章のいろいろ3 言語文化	第23回	研究計画の検討1
第9回	ことばの理解1 表記	第24回	研究計画の検討2
第10回	ことばの理解2 ことばのきまり	第25回	研究計画の検討3
第11回	ことばの理解3 語と意味	第26回	研究計画の検討4
第12回	ことばの力5 音読の力	第27回	研究計画の発表1
第13回	ことばの力6 コミュニケーションの力	第28回	研究計画の発表2
第14回	ことばの力7 情報活用の力	第29回	研究計画の発表3
第15回	ことばの力8 論理の力	第30回	研究計画の発表4

到達目標

小学校国語科教育に関わる内容の中から、卒業論文に向けてテーマを見つけ、研究計画を立てることができる。

履修上の注意

発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。また、順番に発表を行うので欠席しないこと。

予習・復習

あらかじめ授業に関係するテキストの内容や教材を読んでおく。また、自分の考えを整理して書き残しておく。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

- ・教科書名：言語活動中心 国語概説 改訂版：小学校教師を目指す人のために
- ・著者名：岩崎淳ほか
- ・出版社名：学文社
- ・出版年：2022年(9784762031274)

授業概要

絵本、ごっこ遊び、劇遊びをはじめとする児童文化、保育の歴史、保育者の労働問題など保育に関する幅広いテーマを取り扱う。毎週の文献読解により得た知識を、模擬保育や保育ボランティア、園見学の体験を通して実践可能なレベルの理解まで高めるよう指導する。

春期は子どもの言葉や表現を豊かに育む保育実践の歴史と現在の動向について、文献講読を通して学ぶとともに、子どもの言葉の発達に関する現代的な課題について考察する。保育実践や保育研究について、自分なりの視点を持ち、言語化できるよう多くの討議を行う。資料の入手、読解についても具体的な方法を修得する。討議を行うなかで、研究に必要な批判的思考と保育に関する研究の方法と資料の探し方について修得する。

秋期は春期の知識、経験をもとに、研究テーマを決定し探究する。選んだテーマの先行研究について読み込みを進めつつ、仮説を設定し研究計画を立てる。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	文献の探し方①／絵本に関する研究	第 17 回	研究テーマと研究方法の検討①
第 3 回	遊び・活動に関する研究①	第 18 回	研究テーマと研究方法の検討②
第 4 回	遊び・活動に関する研究②	第 19 回	研究テーマと研究方法の検討③
第 5 回	遊び・活動に関する研究③ 模擬保育	第 20 回	質的研究：事例研究やインタビュー調査
第 6 回	環境に関する研究①（保育室）	第 21 回	量的研究：例）保育士の労働問題
第 7 回	環境に関する研究②（園舎・園庭）	第 22 回	学生発表：先行研究の検討①
第 8 回	園見学①（保育内容と環境に着目して）	第 23 回	学生発表：先行研究の検討②
第 9 回	園見学①を踏まえた討議とまとめ	第 24 回	学生発表：先行研究の検討③
第 10 回	園での劇上演の準備①	第 25 回	研究計画の発表準備
第 11 回	園での劇の上演の準備②	第 26 回	卒業論文の研究計画の発表①
第 12 回	園での劇の上演の準備③	第 27 回	卒業論文の研究計画の発表②
第 13 回	園訪問（劇の上演）	第 28 回	卒業論文の研究計画の発表③
第 14 回	劇の上演についての討議とまとめ	第 29 回	秋期のまとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	全体の振り返り

到達目標

- ・保育者としての視点から、児童文化や保育実践について批判的かつ論理的に検討、考察できる。
- ・他者の意見を尊重、理解するとともに、自分との考えの違いを分かりやすい言葉で言語化できる。
- ・卒業論文のテーマや方向性を決め、必要な知識の習得を始めることができる。

履修上の注意

- ・園見学、訪問に備え、ふだんから保育者を目指す学生としてふさわしい態度でゼミに臨むこと。
- ・グループごとの発表や演習が多いため、欠席をしないように気をつける。
- ・卒論研究には、批判的思考が求められる。討議の際には意見の違いを恐れず自分なりの考えを述べること。
- ・遅刻 3 回で欠席 1 回として扱う

予習・復習

- ・本演習の単位取得には、発表や模擬保育、卒論計画などの準備のため、授業以外の自主学習が必要となる。

評価方法

- ・討議と資料読解への積極性（40%）、発表・上演・レポートなどの成果（40%）、授業態度（20%）

テキスト

適宜、資料を配布する。

授業概要

4年次の卒業論文に向けて、専門演習では参考文献の収集や先行研究レビュー、調査方法の検討を行い、自らが興味関心と問題意識を持つテーマについての理解を深めることを目標とします。
 春期は身近なテーマを社会的に捉える思考を鍛えていきます。具体的には、「教育格差」や「ジェンダー」、「不登校」、「いじめ」、「発達障害」など、幅広いテーマから自分の関心を社会的に捉え直し、自分の問いに即した調査方法を検討します。
 秋期は卒業論文作成に必要な方法論を学びながら、自分の研究テーマに関する文献を読み進めて整理していき、卒業論文構想発表へとつなげられるように指導します。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション：論文の書き方
第2回	身近なテーマから問いを立てる	第17回	研究テーマと研究方法①：問題関心
第3回	図書館の利用①：参考文献の検索方法	第18回	研究テーマと研究方法②：先行研究整理
第4回	図書館の利用②：関連資料の検索方法	第19回	研究テーマと研究方法③：調査方法
第5回	社会的思考の把握	第20回	報告資料の作成方法、発表方法
第6回	教育社会学のテーマ①	第21回	文献研究①
第7回	教育社会学のテーマ②	第22回	文献研究②
第8回	教育社会学のテーマ③	第23回	文献研究③
第9回	先行研究レビュー①：方法を知る	第24回	卒業論文の研究計画書作成①
第10回	先行研究レビュー②：調べてみる	第25回	卒業論文の研究計画書作成②
第11回	先行研究レビュー③：紹介する	第26回	卒業論文の研究計画書作成③
第12回	質的調査法①：調査倫理の問題	第27回	卒業論文構想発表①
第13回	質的調査法②：調査協力者との出会い	第28回	卒業論文構想発表②
第14回	質的調査法③：フィールドワークとインタビュー調査	第29回	卒業論文構想発表③
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

到達目標

- ・社会的な研究方法について理解できる。
- ・4年次の卒業論文作成に向けた研究計画書を立案し、遂行する能力を養うことができる。
- ・自分の研究構想をわかりやすく伝えるプレゼンテーション力を習得することができる。

履修上の注意

- ・意欲的に学ぶ姿勢を求めます（遅刻や欠席は原則不可、やむを得ない場合は事前に連絡すること）
- ・自らの学校経験を振り返りながら、社会問題について多角的に捉える視点を求めます
- ・報告に真剣に取り組み、仲間と積極的に議論することを求めます
- ・4年次の卒業論文に向けて、専門演習で決めたテーマで継続的に研究を進めることを求めます

予習・復習

- ・先行研究レビューや文献研究、卒業論文の研究計画書の作成、構想発表の準備は予習および復習となります
- ・授業時間外に取り組む必要があるため、計画的に進めていきましょう

評価方法

- ・授業における参加態度（40%）、課題等の提出物（40%）、報告内容（20%）から総合的に判断します

テキスト

- ・各自の興味関心・問題意識を集約した上で、適宜指示します

授業概要

本演習では、翌年度に履修する「卒業論文又は卒業研究」において、小学校算数教育をテーマとする卒業論文の執筆に向けた予備的な準備を行うことを目的とする。

具体的に、春期では、レジュメの作成や発表の方法、文献の検索や購読の方法、引用の方法や引用・参考文献の書き方など、基本的な研究方法を指導する。秋期では、算数教育研究の型や研究方法を指導した上で、算数教育をテーマとした文献の購読を行う。後半では、それまでに学んだことを生かし、卒業論文の研究計画の作成を行う。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	レジュメの作成・発表の方法	第 17 回	数学教育学とは
第 3 回	文献の検索方法	第 18 回	算数教育研究の型①
第 4 回	文献の読み方①	第 19 回	算数教育研究の型②
第 5 回	文献の読み方②	第 20 回	算数教育研究の型③
第 6 回	文献の読み方③	第 21 回	算数教育における研究方法①
第 7 回	引用の方法①	第 22 回	算数教育における研究方法②
第 8 回	引用の方法②	第 23 回	算数教育における研究テーマ①
第 9 回	引用・参考文献の書き方	第 24 回	算数教育における研究テーマ②
第 10 回	研究倫理の遵守①	第 25 回	算数教育における研究テーマ③
第 11 回	研究倫理の遵守②	第 26 回	卒業論文の研究計画作成①
第 12 回	文献講読と討議①	第 27 回	卒業論文の研究計画作成②
第 13 回	文献講読と討議②	第 28 回	卒業論文の研究計画作成③
第 14 回	文献講読と討議③	第 29 回	卒業論文の研究計画作成④
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・学校教育における研究の進め方を理解することができる。
- ・算数教育における研究の動向を理解することができる。
- ・卒業論文における自身の関心を明らかにし、それを基にして研究計画を立てることができる。

履修上の注意

- ・原則、遅刻や欠席はしないこと。やむをえない場合は、事前に連絡すること。
- ・レジュメの作成は、基本的に PC を用いて行うこととなるので、文書作成ソフト（Microsoft Word など）を使えるようにしておくこと。

予習・復習

- ・履修者の人数にもよるが、履修者にはおおよそ隔週でレジュメの作成と発表を行ってもらう。それを行うのに必要にして十分な予習が必要である。また、発表後には、次回以降の発表へつながる振り返りを復習として行ってもらう。

評価方法

- ・発表したレジュメの内容（50%）、卒業論文の研究計画（50%）で評価する。

テキスト

テキストは特に指定しない。履修者の関心に応じて、適宜資料を配布する。また、必要に応じて、下記の参考文献を参照されたい。

中原忠男(編) (2001). 算数・数学科重要用語 300 の基礎知識. 明治図書.
 日本教科教育学会(編) (2017). 教科教育研究ハンドブック：今日から役立つ研究手引き. 教育出版.
 日本数学教育学会(編) (2011). 数学教育学研究ハンドブック. 東洋館出版社.
 日本数学教育学会(編) (2018). 算数教育指導用語辞典〔第五版〕. 教育出版.
 日本数学教育学会(編) (2021). 算数・数学 授業研究ハンドブック. 東洋館出版社.
 全国数学教育学会(編) (2024). 数学教育学の軌跡と展望：研究のためのハンドブック. ナカニシヤ出版.

授業概要

本演習は、「体育科教育でこんな研究がしたい」という願いを実現することを目的として指導する。そのため、「小学校体育科教育」をテーマに体育の授業を実践的、理論的に学んでいく。春期は「体育科教育学入門」の購読を通し、体育科教育をテーマとした卒業論文作成に必要な知識や技能の獲得をする。秋期は、卒業論文の執筆に向けて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料の収集、先行研究レビュー、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学ぶことにより、卒業論文につなげる。授業では、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、活発な意見交換を行う。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	テキスト購読・議論 体育の基礎理論	第17回	研究テーマと研究方法の検討①
第3回	テキスト購読・議論 体育授業設計	第18回	研究テーマと研究方法の検討②
第4回	テキスト購読・議論 体育授業評価	第19回	文献・資料収集①
第5回	テキスト購読・議論 体育の授業実施	第20回	文献・資料収集②
第6回	テキスト購読・議論 体づくり系の授業づくり	第21回	研究計画の作成①
第7回	テキスト購読・議論 器械運動系の授業づくり	第22回	研究計画の作成②
第8回	テキスト購読・議論 陸上運動系の授業づくり	第23回	研究計画の作成③
第9回	テキスト購読・議論 水泳運動系の授業づくり	第24回	研究計画の作成④
第10回	テキスト購読・議論 ゴール型の授業づくり	第25回	個人発表（中間）
第11回	テキスト購読・議論 ネット型の授業づくり	第26回	卒業論文に向けた研究計画の修正①
第12回	テキスト購読・議論 ベースボール型授業づくり	第27回	卒業論文に向けた研究計画の修正②
第13回	テキスト購読・議論 表現運動系の授業づくり	第28回	卒業論文に向けた研究計画の修正③
第14回	テキスト購読・議論 インクルーシブ体育	第29回	卒業論文に向けた研究計画の修正④
第15回	春期のまとめ	第30回	個人発表（最終）
		第31回	4年次の卒業論文に向けて

到達目標

- 「体育科教育学入門」の購読を通して、体育科教育学を実践的、理論的に学ぶことにより、体育科教育をテーマとした卒業論文作成に必要な知識や技能を習得することができる。
- 小学校体育科の各運動領域の中から興味・関心のある運動領域を選択して卒業論文に向けてのテーマを見つけ、研究計画を立案することができる。

履修上の注意

- 本演習は、4年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を体育科教育に係る内容で作成しようという学生であること。
- 遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- 授業や議論には楽しく積極的な態度で参加することを求める。
- 秋期の「研究計画の作成」、「卒業論文に向けた研究計画の修正」では、実技演習を伴う場合がある。

予習・復習

- 前半は、テキスト購読の復習を行い、体育科教育をテーマとした卒業論文作成に必要な知識・技能を確実に積み上げること。
- 後半は、資料の収集、研究計画の作成、発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる

評価方法

次のように総合評価する

- ①出席状況：30% ②各回の議論内容：20% ③個人発表及び研究計画：50%

テキスト

- ・教科書名：岡出美則、友添秀則、岩田靖（編著）「体育科教育学入門 三訂版」大修館書店,2021
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」東洋館出版社,2018